

Care & Communication

ケア&コミュニケーション



DENTAL REPORT

予防歯科を重視する診療に徹し、患者のデンタルIQの向上に努める

田中歯科医院 院長
田中 秀直 先生

P01-06



INSIDE REPORT

同世代の患者と一緒に成長し、健康長寿を歯科医療から支える

あゆみ歯科クリニック 院長
福原 隆久 先生

P07-12



THE FRONT LINE

誌上セミナー Vol.3
シングルデンチャーの治療を成功に導く製作のポイント

ナカ工歯科クリニック 院長
前畑 香 先生

P13-16



DOCTOR'S TALK

訪問診療に重きを置き、アットホームな治療で地域医療に貢献

歯科医院なかや 院長
遠山 清美 先生

P17-19



ゆったりと柔らかな印象の待合室



待合室の壁面を活用した口腔ケアグッズと雑誌コーナー

予防歯科を 重視する診療に徹し、 患者のデンタルIQの 向上に努める

大阪にある「田中歯科医院」は、官庁街にも近いオフィスビルにある。予防歯科を重視する診療を続け、2018年5月にリニューアルを実施した。歯科医院の始まりから現在まで、その歩みを伺ってみた。



田中歯科医院 院長 田中 秀直 先生

時代の変化を見据えて 予防重視の歯科医院を開業

「田中歯科医院」は、オフィスビルの3階にある。玄関を開けると、真っ白なソファが並ぶ広々とした待合室が迎えてくれる。受付の奥にはレントゲン室と4つの個室。その奥に並ぶのは、パーティションで仕切られた予防・メンテナンス用の3つのチェアだ。

診療室はここまでかと思いきや、カウンセリングルームを挟んで、さらに歯科医院は続いている。パーティションで仕切られた2つのチェアは、「予防サロン」と名づけられたスペース。その近くに総合滅菌室、セミナー室や医局もある。

歯科医院が細長い構造になったのは、患者の増加に対応するため、隣のオフィススペースも借りる必要が出てきたからだ。2018年5月、歯科医院の拡張に合わせて、内装も全面的にリニューアルした。

「勤務医が7名、歯科衛生士がパートも含めて8名、受付と歯科助手を合わせて5名が働いています。受付からはそう大きな歯科医院に見えませんが、じつは大所帯なんです」と田中秀直院長は微笑んだ。

田中歯科医院が開院したのは、2007年。田中院長は、大阪歯科大学大学院歯学研究科で口腔衛生学を学び、

同大付属病院予防歯科で働いた後、複数の歯科医院の勤務を経て開業した。

「私が予防歯科に興味を持ったのは大学時代です。予防歯科の教授が『川の流れは川下で濁って大きく広がり、対応が大変になる。上流でしっかり清流を確保することが大切』とおっしゃったことに感銘を受けたのがきっかけでした」

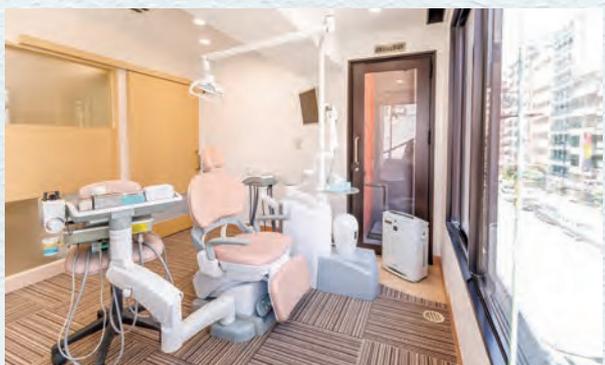
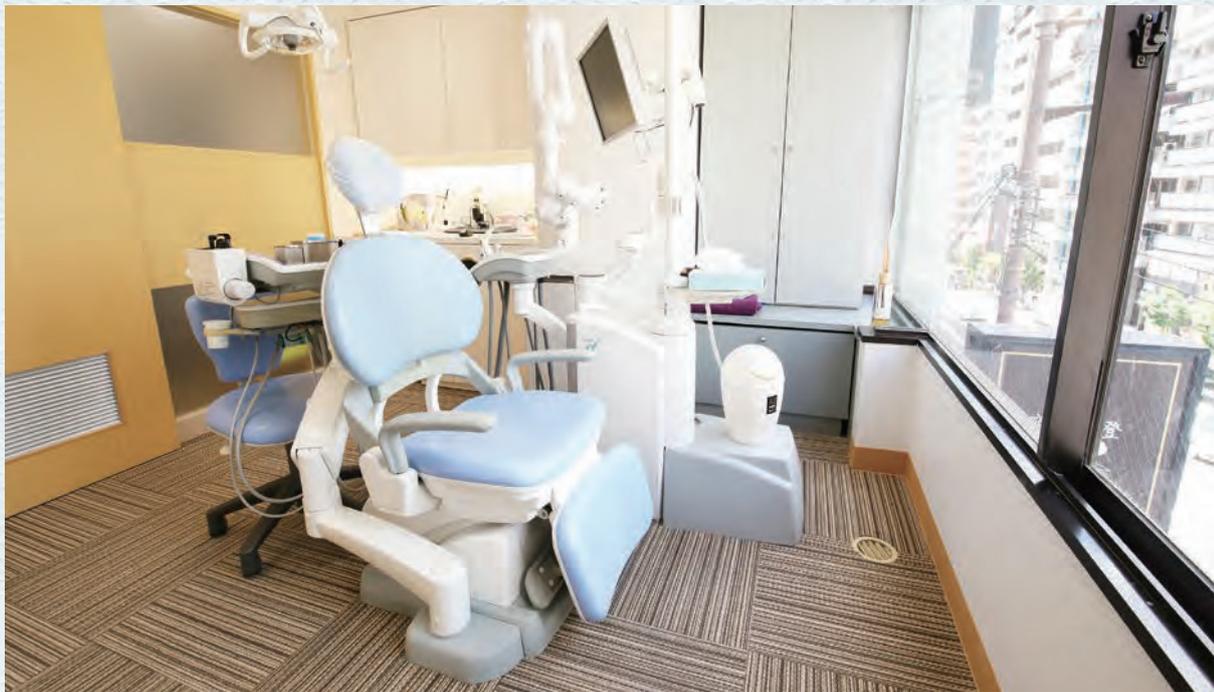
「う蝕の洪水」と言われた高度経済成長期に比べると減ってはきたが、それでもまだ虫歯治療を目的に通院する患者は多かった。田中院長は、虫歯や歯周病で歯を失いかけてから対処するのではなく、歯にトラブルが起こる前にしっかりと管理することが重要と深く胸に刻むことになったのである。

「予防歯科を専門に学んだ大学院時代には、これから予防の時代が来るとはっきりと認識していました。開業は、まさにデンタルIQがようやく上がりつつある頃だったのです」

歯科治療の信念を持ち 患者への啓蒙を根気強く続ける

とはいえ、開業してすぐに予防歯科を中心に診療ができたわけではない。しばらくは、虫歯の治療を求める患者のほうが多かった。

個室診療室



個室タイプの開放感のある明るい診療室

しかし、田中院長は悲観しなかった。歯科医院のそばに自宅があり、職住近接だったことから、この地域を知り抜いていた。周囲には官公庁や名の通った企業が多く、タワーマンションに住む住民も多かった。それらの人々の様子から、健康への関心が高い層が潜在的にいると感じていたからだ。「初診のきっかけは虫歯や歯周病でも、予防の大切さをしっかりお話しすれば、治療後も定期的に予防で通院する患者さんは増える。そう信念を持って取り組むことができたのは、大学病院で予防歯科に勤務した経験も大きかったと思います」

田中院長は、1時間の診療時間のうち、30分は予防の大切さを話すカウンセリングに費やす。しかも、話をするときは、チェアの上ではなく、カウンセリングルームを使った。「患者は一刻も早くユニットから降りたいもの」という患者の気持ちが分かっていたからだ。

カウンセリングに時間をかける方法は、予防に関心の

高い患者や、自分のお口の健康状態を知りたいと思う方が通院を続けるという、一つのフィルターにもなった。「院長の立場で考えれば、経営は気になりますし、患者さんの数が思うように増えないと、不安になるものです。でも、信念を持って歯科医院を開いたのですから、その信念がぶれては終わりです。自分と患者さんを信じ続けることが大切だと思います」

現在、田中歯科医院の患者数は1日100人前後。男女比はほぼ同等だ。30～40代のビジネスパーソンが中心だが、子どもを持つ若い世代のファミリーも少なくないという。

患者もスタッフも、歯科医院に関わる全員が幸せになるために

田中歯科医院のカウンセリングは、2回目の予約時など、

予防・メンテナンス室



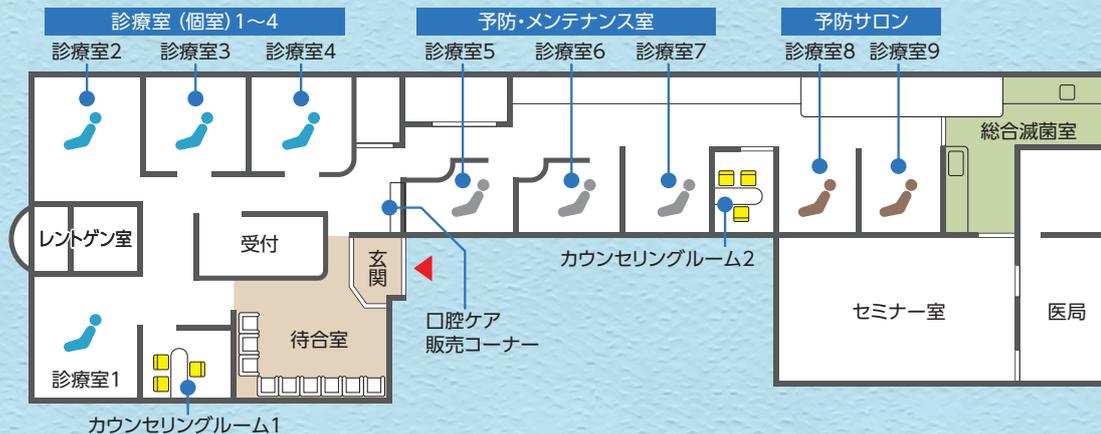
予防室はパーティションを活用した半個室

予防サロン



「予防サロン」は広々とした落ちつきのある半個室

田中歯科医院 院内MAP



早い時期に設けている。

初診の段階でレントゲンや口腔内写真の撮影、虫歯・歯周病検査、口腔内の健康診査のデータを取り、それを基にして「お口の健康シート(P.06)」を作成する。そして、治療・予防計画を立てた上でカウンセリングは行われる。「ホームページには、どのような流れで診療とカウンセリングが行われるかをチャートの形で掲載しています。また、『お口の健康シート』の見本をPDFファイルで紹介したり、無料のメール相談窓口も設けています。患者さんの不安を解消するには、具体的にイメージしやすい情報を提供することも大切だと思います」

それだけでなく、田中院長は、院内のチームワークも重視している。患者にしっかりとしたインフォームドコンセントを行うには、スタッフの連携と情報共有が欠かせないからだ。

治療は歯科医師が中心になるが、治療の流れを説明

するカウンセリング、予防の啓蒙、メンテナンスは、歯科衛生士が主体となって活躍している。

「結婚や出産を経ても働ける環境を整えるため、有給休暇などの福利厚生も整備していますし、セミナーに積極的に送り出すことも、院長の務めだと思っています」

壁を乗り越えるきっかけになった スタディグループとの出会い

生き生きと働くスタッフの表情が印象的な田中歯科医院だが、現在のような体制が整うまでには時間が必要だった。

田中院長は「開業から4、5年経った頃、悩んだ時期があった」と話す。その頃は、スタッフとの意思疎通がうまくいかないことにストレスを感じただけでなく、患者数の伸びも鈍化していたという。

カウンセリングルーム



カウンセリングルームは2室ある



増築した奥に通じる廊下も明るい雰囲気

壁を乗り越えるきっかけになったのは、東京で開業する「エムズ歯科クリニック」(C&C37号に掲載)の荒井昌海理事長との出会いだった。

「荒井先生のスタディグループに参加し、自分の歯科医院を一つの経営組織として考えたとき、まったく制度化されていないことを教えられました。院内の人間関係が馴れ合いの関係になってしまっていたんです。ぼんやりしたイメージで経営を行っていたんですね」

田中院長はスタディグループで研修を重ねたことで、治療面だけでなく、有給休暇などの就業規則、福利厚生、患者サービスなどを明文化し、スタッフと共有することの大切さを痛感したという。

たとえば、医療機器や消耗品、お金の扱い方など、診療に関わるすべての部分に細かく目を向けてみると、スタッフによってやり方がかなり違っていた。自分以外も分かるように整えるスタッフもいれば、自分だけのルールで行うスタッフもいたのだ。誰もが一度説明を聞いて理解できるような、分かりやすい文章でルールを明文化し、全員で共有する必要があった。

「また、私はそれまでスタッフに求めるばかりだったのでは

ないかと、自分の勉強不足も思い知らされました。そうした反省と勉強の時期を経て、今はスタッフと共に向上しているという意識があります」

この改革は院内に安定をもたらすだけでなく、経営面でもよい効果をもたらした。紹介率が上がり、患者数の増加につながったのだ。

歯科医院に関わる全員が 幸せになる組織に

じつは2018年のリニューアルも、単に手狭になったから、というのではなく、院内改革を経たことによるリニューアルだった。

田中院長とスタッフの意識の変化は、患者のニーズをリニューアルに積極的に取り入れることにも現れた。リニューアル前、院内をどう変えるのがよいか、患者にアンケートを取ったのだ。

待合室では土足とスリッパのどちらがよいか、個室についてはどう思うかなど、アンケートの項目は細部に渡った。



田中歯科医院では、歯科医師、歯科衛生士、歯科助手、歯科受付の各スタッフへの教育の一環として、診療業務を体系化したマニュアルをオリジナルに作成し活用している



カウンセリングに必須の「お口の健康シート」

また、スタッフにも詳細なアンケートを実施した。その結果がもっとも大きく現れたのが総合滅菌室の場所だ。院内の一番奥に設けられている。

「スタッフから滅菌中の機械音や消毒液のにおいを患者さんに悟られたくない、という意見があったのです。患者さんが不安になるような要素を排除したいというスタッフの思いからでした」

田中院長は今回のリニューアルについて、スタッフと患者のニーズ、そして時代のニーズも加えた理想の形でできたと胸を張る。

患者へのアンケート調査はその後、定期的に行われている。たとえば、最近では歯磨きに関するアンケートが行われた。歯磨きの回数や使うアイテム、歯ブラシの交換回数などを調べることで、メンテナンスのときの歯磨き指導の参考になっているという。

「患者さんはもちろん、スタッフと私を含め、歯科医院

に関わる全員が幸せになることが、組織として理想の形だと思います。歯科医院を大きくするのは、今回のリニューアルで一段落しましたし、これからは、治療や予防、サービスの質をより高めていくことに注力していきたいです」



田中院長とスタッフのみなさん

PROFILE

田中 秀直 先生

- 2001年 朝日大学歯学部卒業。大阪歯科大学大学院歯学研究科口腔衛生学専攻。大阪歯科大学附属病院予防歯科に勤務
- 2005年 大阪歯科大学大学院修了。歯学博士取得
- 2007年 歯科医院勤務を経て、田中歯科医院開業
- 2014年 医療法人田中歯科医院設立
- 2012年 ハーバード大学(USA) エステティック&インプラント卒業研修プログラム修了。ペンシルバニア大学(USA) エステティック&インプラント卒業研修プログラム修了
- 日本口腔衛生学会認定医(予防歯科相談窓口)
- 日本歯周病学会
- MID-Gマニュアル作成コースCertificate

医療法人 田中歯科医院 住所：大阪府大阪市中央区内本町1-2-14 秀和ビル3F TEL：06-6949-3718 HP：<http://tanakadent.com/>



同世代の患者と 一緒に成長し、 健康長寿を 歯科医療から支える

「あゆみ歯科クリニック」は京都府八幡市にある大型歯科医院だ。2009年の開業以来、順調に成長。保育園を併設するなど、地域医療に貢献している。開業からこれまでの歩みを伺ってみた。



あゆみ歯科クリニック 院長 福原 隆久 先生

患者の急増に応える形で ユニット13台の歯科医院に

「あゆみ歯科クリニック」は京都南部の八幡市・松井山手駅近くにある。枚方市にも近く、京都や大阪のベッドタウンとして1980年代から人口が急増している地域だ。

あゆみ歯科クリニックの開業は、2009年。チェア3台からスタートした。

「住宅は増えていましたが、竹林もまだ多く残っていて、目立つ建物がほとんどない地域でした」と福原隆久院長は振り返る。

しかし、開業前の内覧会には多くの見学者が訪れ、225人が初診の予約を入れていった。その数は当時、日本一多い予約者数として注目を集め、歯科専門誌の記事になるほどだった。

「幸先のよいスタートダッシュを切ることができましたが、喜ぶ暇もないくらい次々と患者さんが押し寄せたのです。日本一、忙しい歯科医院なのではないかと思うほど、めまぐるしい毎日でした」

開院時からチェアを8台は増やせるように設計はしていたが、患者は右肩上がりに増え、毎年、チェアを増やすような状態に。取材に伺ったときには、チェアは13台

まで増えていた。福原院長は、これ以上は難しいと思っていたそうだが、設計士のアドバイスで個室の間仕切りを工夫すれば、1台増やせることが分かり、ちょうど取材をした翌週から、その工事が始まることだった。

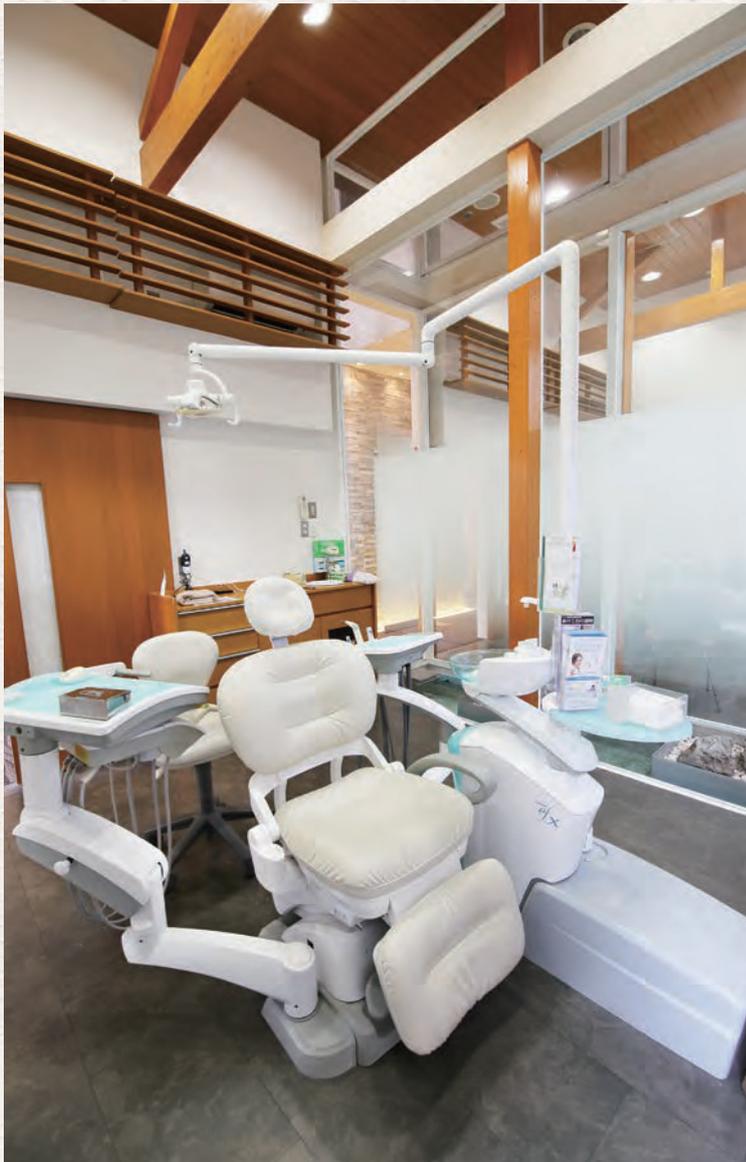
「開業からの10年間、予約数に応えるためにチェアとスタッフを増やし、診療が落ち着いたとほっとしたのもつかの間、すぐに足りなくなり、慌ててチェアとスタッフを増やす、の繰り返しでしたね」と笑う。

予防への意識を高め、 健康長寿の地域に

新興住宅地にあるあゆみ歯科クリニックの患者は、30～40代のファミリーが多い。福原院長がこの地を選んだのも、自身と同年代の患者が多いことが理由の一つだった。

あゆみ歯科クリニックは、予防歯科を診療の柱に据えている。日本は世界一の長寿国だが、寝たきりの人も多く、健康長寿国とは言えない。健康で長生きするためには、自らの力で口から食べられるかどうかが鍵を握る。そのためには、予防を徹底し、歯を守ることが重要だ。

「歯科医院は、院長の年齢が上がるのと一緒に、患者



診療室はすべて個室。天井が高く、ガラスを活用した開放的なデザインが特徴



さんの中心層も年を重ねていくものです。今、若い患者さんもいずれ健康をどう維持していくか、考えなければならない年代に入ります。若いうちから、私の歯科医院に通うことで健康への関心を高めてもらいたい。そして、その意識が歯科医院の枠を超えて広がっていけば、地域全体が健康長寿の町になっていきます。私はその健康長寿の地域づくりに貢献したいと思っているのです」

そして、あゆみ歯科クリニックは2016年、隣の長尾駅に分院を開院した。オフィスビルの1階にあり、チェアは4台。分院長は、本院の勤務医だった日野卓哉歯科医師が務めている。「今後も本院に近い京田辺市内に1軒、分院を作る予定です。複数の分院を近隣に点在させることで、あゆみ歯科クリニックのネットワークをつくり、地域の

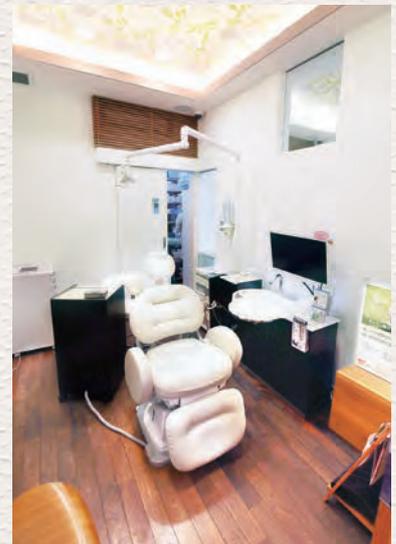
健康長寿に貢献していきたいです」

明るく接することで 院内を盛り上げる

歯科医院は急成長すればするほど、院内のオペレーションをどう整えていくか、課題も増えるものだ。あゆみ歯科クリニックは、どのように乗り越えていったのだろう。

福原院長に、開業からの10年を振り返り、一番、苦労した時期を聞いてみると、「開業したばかりの頃」と答えた。

開業時のスタッフは、常勤は歯科衛生士が1人、歯科助手が2人、その他にパートの歯科衛生士がいた。



個室ごとに変化をつけ、家族と一緒に診療が受けられる広いタイプもある

そのうち、歯科衛生士と歯科助手が1名ずつ辞めてしまったのだ。

「苦境の時期を助けてくれたのは、パート勤務の歯科衛生士でした。すぐに新しくスタッフを採用し、人数を増やしましたが、新人の指導や院内のオペレーションを整えるのに彼女が頑張ってくれたおかげで乗り切れたのです」

それと共に福原院長が意識したのは、明るい雰囲気作りだった。院長が悩んだり、暗い表情をしているとスタッフの志気も下がってしまう。リーダーとして福原院長は前向きな姿勢を崩さず、スタッフとのコミュニケーションを重視した。

「ミーティングは週1回、昼食をとりながらの会合が月1回ありますが、毎日のランチも必ず順番にスタッフの一人と食べるようにしています。食事をしながら

1対1で話すと、忙しくて言いそびれていることやお互いに言いにくいことも話しやすくなります。それも、私から話すというより、『最近、どう?』という感じで話を聞いていくことが多いですね」

じつは今回のインタビューは、歯科医院の外で行われた。その最中、事務長からかかってきた電話に対し、福原院長は、「今はどんな感じ?」とやさしく話しかけた。歯科医院とスタッフを気かけ、思いやっていることが伝わる明るい話し方だった。

「勤続年数が長いスタッフも増えましたし、恐らく私が1ヵ月間、不在にしても歯科医院は回ると思います。でも、それではいつかモチベーションが下がる時期が来ってしまう。ほんの数日でも、私がセミナーなどで不在の日があると、戻ってきたときに『雰囲気が違う』と感ずることがあるのです。エネルギーを惜みず、つねにスタッフを



自然光が降り注ぐ吹き抜けの天井



レントゲン室のCT



ナチュラルな雰囲気の子供コーナー

気に掛けているという姿勢を見せることは、とても大切だと思っています」

保育園を併設し、働きやすい環境も整備

スタッフを大切にしている福原院長の思いは、2018年4月、0～6歳児（未就学児）を対象にした保育園を開設したことに現れている。開業当初に苦楽を共にした歯科衛生士が妊娠したことをきっかけに、歯科医院の奥の敷地を活用し、企業主導型保育施設の「あゆみ歯科保育園」を併設した。

保育園では歯科衛生士や歯科助手の子どもたちだけでなく、地域の子どもたちも受け入れている。また、歯科医院の患者が治療の間、託児施設として無料で利用することもできる。

「予防歯科では患者さんとのおつきあいが長期にわたります。その間、スタッフが3、4年で変わってしまえば、患者さんの目には、スタッフがよく変わる歯科医院に見えてしまいます。スタッフが長く働ける環境を作る

ことは、患者さんに信頼して通っていただくためにも必須だと思います」

予防の大切さを浸透させるには、子どもの頃からの啓蒙が欠かせない。あゆみ歯科クリニックは、母親学級や保育園、小学校の歯磨き指導を通じて、歯の守り方を積極的に伝えている。保育園の併設は、親子が立ち寄りやすい環境を作ったことで、より予防歯科への関心を高める機会にもなった。

じつは福原院長は5人のお子さんを持つ父親でもある。患者やスタッフの悩みに寄り添えるのも、自身と重ねて考えられる視点があるからなのだろう。

あゆみ歯科クリニックが重視しているのは、子どもだけではなく。高齢の患者のため、毎日、訪問診療も行っている。訪問・往診エリアは近隣だけでなく、京田辺市や枚方市も含まれ、広範囲だ。

本院、分院、訪問と診療の幅が広いあゆみ歯科クリニックだが、スタッフの勤務体制はどうなっているのだろう。

「訪問診療は専門のスタッフが担当していますが、本院と分院はローテーションを組み、曜日によってスタッフはどちらかの歯科医院を担当しています。分院を近い

あゆみ 歯科保育園



歯科医院に併設した 企業主導型保育園

あゆみ歯科クリニックの奥に併設された保育園。保育士が常駐し、スタッフや地域の0～6歳児（未就学児）を預かっている。通院する患者が治療中に託児先として利用することも可能。歯科医院の併設ということもあり、子どもたちに歯磨き指導をすることも。保育園を利用する親同士のネットワークがあゆみ歯科クリニックと地域を結び架け橋にもなっている。

場所に設けたのも、スタッフの生活圏から離れることなく、勤務しやすい環境を考えてのことです」

勉強熱心な福原院長は、今も定期的にセミナーに参加し、研鑽を重ねている。また、自身の取り組みを「あゆみ歯科バス見学ツアー」などを企画して、他院の院長にも惜しみなく公開している。

「生まれ変わっても歯科医師になりたい」と話すほど、歯科に情熱を燃やす福原院長は、志を同じくするスタッフと共に、あゆみ歯科クリニックをより大きく成長させたいという夢を抱いている。

「将来、この地域はなぜか元気で健康に過ごす人が多い。理由を探してみると、うちの歯科医院が

そのきっかけを作っていた。そんな地域になるのが理想ですね」



福原院長(3列目中央)とスタッフのみなさん

PROFILE

福原 隆久 先生

●2004年 朝日大学歯学部歯学科卒業。岐阜県の歯科医院に勤務 ●2009年 大阪府の歯科医院院長を経て、京都府八幡市にあゆみ歯科クリニックを開業 ●IDIA(国際インプラント協会) 専門医 ●日本口腔インプラント学会会員 ●日本補綴歯科学会会員 ●日本全身咬合学会会員 ●京都インプラント研究所所属

あゆみ歯科クリニック

住所:京都府八幡市欽明台西31-8 TEL:075-981-6874 HP:<https://ayumi-dent.com/>

シングルデンチャーの治療を 成功に導く製作のポイント

第3回

「C&C」46号から3回に渡ってお届けした「ナカエ歯科クリニック」（神奈川県）の前畑香院長による誌上セミナー最終回は、「成功に導くシングルデンチャー（全部床義歯）治療へのアプローチ」です。シングルデンチャーが上下顎総義歯より治療が難しいと言われる要因を挙げながら、解決に導く有効な対処法を具体的に紹介していただきました。

誌上セミナー3回の構成のご紹介



第1回 Denture Recare

義歯ケアを重視した
定期健診プログラム“Recare”の提案

C&C Vol.46



第2回

部分床義歯製作で考えたいこと

C&C Vol.47



第3回

総義歯治療

シングルデンチャーのアプローチ

C&C Vol.48



PROFILE

ナカエ歯科クリニック 院長 前畑 香 先生

- 2000年 神奈川県立歯科大学歯学部卒業 ●2004年 ナカエ歯科クリニック副院長（土肥寛二院長）
- 2006年 ナカエ歯科クリニック院長

- 神奈川県立歯科大学全身管理医歯学講座非常勤講師 ■有床義歯学会指導医
- 日本顎咬合学会認定医 ■日本歯科補綴学会会員 ■日本デジタル歯科学会会員

- 【著書】 ●単著「Denture 1st book ビジュアルでわかる総義歯作成“超”入門」（デンタルダイヤモンド社・2016年）
●編著「いまこそ知りたい そろそろ知りたいデンチャーQ&A」（デンタルダイヤモンド社・2016年）
●編著「デンチャーメンテナンス」（デンタルダイヤモンド社・2017年）

第3回

総義歯治療シングルデンチャーのアプローチ

シングルデンチャーとは、上下顎のいずれかが無歯顎の場合に適用される全部床義歯である¹⁾。対合歯列が、天然歯列、ブリッジや部分床義歯などの補綴装置を装着してある欠損歯列、またインプラントを用いた補綴装置が装着してある欠損歯列などがある。実際、シングルデンチャーの装着症例は、上下顎総義歯の装着症例と比べ、高頻度で見ることができる²⁾。

しかしながら、シングルデンチャー治療は、対合歯列の状態（咬合平面の乱れや歯列不正など）や、対合歯列と義歯支持組織の生体力学的な違いに影響され容易ではない²⁾。本稿では、なぜシングルデンチャー治療が上下顎総義歯治療より治療が困難とされているのか、その問題点からシングルデンチャー製作のポイントを解説したい。

シングルデンチャーは なぜ上下顎総義歯より治療が困難なのか？

シングルデンチャー製作を困難にする要因

① 対合歯列の状態

上下顎総義歯の咬合は、適正な顎間関係において安定した中心咬合位とスムーズな偏心運動時の咬合平衡³⁾を与える。そして一般的には両側性平衡咬合が適していると言われている。ところで筆者は、鈴木哲也先生が推奨されているリングライズド様フルバランスドオクルージョンを上下顎総義歯の咬合様式として採用している。特に上下顎総義歯の顎位や咬合は、義歯床の安定に影響を及ぼすとされ⁴⁾重要視されている。

しかしながら、シングルデンチャー治療は上下顎総義歯治療より困難と言われている²⁾。その要因の1つに対合歯列の状態がある。対合歯列の咬合平面の乱れや歯列不正により、シングルデンチャー製作におけるデンチャースペースの制限や、人工歯排列の制約がある。対合歯列に歯列弓の狭窄やアンチモン

ソカーブ、挺出歯が認められる場合、対合歯列の咬合平面や歯列不正を是正するために、必ずしも矯正治療や補綴治療を行えるとは限らない。対合歯列の状態に、シングルデンチャーの維持・安定を妨げるような咬合や顎位の問題があると、シングルデンチャーは中心咬合位だけではなくスムーズな偏心運動時の咬合平衡を維持することができず、結果として粘膜負担であるシングルデンチャーは不安定になり脱落してしまう。特に顎堤吸収が著しいシングルデンチャーであれば、義歯の安定を図ることは、さらに困難を要する。そのため、シングルデンチャーの咬合は、義歯の安定を図ることを目的とし、咬合平面や歯列不正が是正された対合歯列に対し、両側性平衡咬合を与えるように努める。

症例 1 対合の上顎歯列弓が極端に狭い下顎シングルデンチャー製作

対合の上顎歯列弓が極端に狭い下顎シングルデンチャーの場合、上顎歯列に合わせて下顎人工歯を排列すると、舌房が障害され、舌の動きにより義歯の安定が妨げられる。この場合、頬側被蓋の人工歯排列は交叉咬合になる可能性がある。そのため、人工歯頬舌径が狭い人工歯を用いて人工歯排列したり、また大幅に形態修正しても耐久性が変化しない人工歯を用いて頬舌径形態修正を行った後、人工歯排列するなど、対処することができる。

● 対合歯列の咬合平面の乱れと顎位の是正方法の一例

C&C Vol.47「部分床義歯製作で考えたいこと」部分床義歯製作で注意したい項目として「咬合平面の乱れと顎位の是正後に部分床義歯製作を行う」と述べた。シングルデンチャー製作で注意したい項目として、部分床義歯製作と同じく「咬合平面の乱れと顎位の是正後にシングルデンチャー製作を行う」ことを挙げたい。

基本的には、現状の咬合高径を維持しながら、デンチャースペースの改善・咬合平面不正の是正・咬合干渉による顎偏位の改善を行う症例は、対合歯列の残存歯補綴治療や歯冠形態修正を行い、シングルデンチャー製作を行う。顎堤間距離が狭いからといって必ずしも病的に咬合高径が低下したとは限らず、対合歯の挺出や顎堤の隆起によってデンチャースペースが減少したと判断される多くの症例では、咬合高径を変更しないで義歯を製作する。

著しい咬合低下、著しい咬合崩壊による顎間関係の改善を目的とし残存歯補綴治療も含めた全顎の咬合再構築が必要な症例は、現状の咬合高径を維持すべきか、咬合挙上を行うか判断する。咬合挙上が必要な場合、垂直的顎間関係決定法(Willis法・下顎安静位利用法・旧義歯利用法など)を参考にした新たな咬合高径と、仮想咬合平面を決定し、シングルデンチャー製作の前処置として治療用義歯製作を試みる。シングルデンチャー製作時に治療用義歯を用いることにより、対合歯列に対するシングルデンチャーの歯列や咬合を具現化することができる。また咬合挙上を行うにあたり、治療用義歯を使用することで、その挙上量が許容範囲であるか確認することができる。



対合の上顎歯列弓が狭い下顎シングルデンチャーの人工歯排列は、舌側寄りに人工歯排列される傾向がある。



結果として舌房が障害され、舌の動きにより下顎義歯の安定が妨げられる。



舌房が障害される部位の人工歯を切削し舌を戻った。



7より、人工歯頬舌径が狭い人工歯を再排列した。この症例は交叉咬合にならないように配慮した(第二大臼歯はスキーゾーンに位置していたため、第一大臼歯間までの人工歯排列を確認後、咬合せないように排列をおこなった)。



4と比較して舌房が広がったことが確認することができる。

シングルデンチャー製作を困難にする要因

② 咬合・咀嚼力の負担様式の違い

シングルデンチャー治療は上下顎総義歯治療より困難と言われるもう1つの要因に、対合歯列とシングルデンチャーの咬合・咀嚼力の負担様式の違いがある。

天然歯の咬合・咀嚼圧は約50～90kgであるが、総義歯の咬合・咀嚼圧は約2～15kgと言われている⁵⁾。これら咬合・咀嚼力に対しクラウンブリッジは歯根膜負担、部分床義歯は歯根膜・粘膜負担、総義歯は粘膜負担する。そして総義歯の場合、義歯床下粘膜が維持力と支持力を負担する⁶⁾。

シングルデンチャーは、対合歯列に対する咬合・咀嚼圧と負担様式の違いにより、過剰な咬合力が無歯顎の顎堤に影響を及ぼした結果、義歯床下粘膜に疼痛が起こるだけでなく、フラビーガムが発生することもある。特に上顎

シングルデンチャーと下顎両側性遊離端欠損(コンビネーションシンドローム)の症状としてフラビーガム等が挙げられる。この理由は、下顎残存歯の歯根膜優位性と言われ、咀嚼時において残存歯の歯根膜内に存在する神経細胞の刺激を無意識に求める生体の自然な反応とされている⁷⁾。

さらに、対合歯列の咬合・咀嚼力が、無歯顎であるシングルデンチャーに対し、過剰な咬合・咀嚼力を発揮している場合、咬合平面の乱れや咬合不正を是正してシングルデンチャーを製作したとしても、緩圧の問題より、義歯装着後の義歯床下粘膜の疼痛や違和感を起こす可能性がある。この場合、軟質リライン材の適応となる。

症例 2 上顎シングルデンチャーの床正中破折

上顎シングルデンチャーの場合、対合歯列により生まれた過剰な咬合力により、床が正中破折することがある。対合歯列の咬合・咀嚼力は、無歯顎であるシングルデンチャーに対し、必然的に大きな咬合・咀嚼力を発揮する。シングルデンチャーの長期使用に

より、人工歯が咬耗し、結果としてアンチモンソンが起こり正中破折を起こす可能性がある。咬耗と義歯破折の関係は、人工歯の機能咬頭から咬耗が進み、経時的にアンチモンソンカーブを呈し、義歯がたわむような側方分力が増大する⁸⁾。



1 シングルデンチャーの長期使用により床が正中破折した。(対合歯列はフルブリッジである。)



4 シングルデンチャーの長期使用により、人工歯が咬耗し、結果としてアンチモンソンが起こり正中破折を起こした。



5 アンチモンソンを解消するためセラミックスで咬合構築をおこなった。咬合力が大きいため、早期に人工歯咬耗を起こす可能性があったため、人工歯交換を選択しなかった。

資料提供

- 1) 日本補綴歯科学会(編):歯科補綴学専門用語集第4版:2015:54
- 2) Alan B.Carr:パウチャー無歯顎患者の補綴治療原著第12版:医歯薬出版:2008:398-406
- 3) 前畑香: Denture 1st book:デンタルダイヤモンド:2016:15
- 4) 市川哲雄,大川周治,平井敏博,細井紀雄(編著):無歯顎補綴治療学:医歯薬出版:2016:51
- 5) 阿部晴彦:診査・診断に基づく総義歯の臨床:クインテッセンス出版:2009:224

症例3 下顎シングルデンチャーのロングセントリックへの対処

ロングセントリックだった有歯顎患者が、下顎シングルデンチャー製作の水平的顎間関係決定時に、困難を生じることがある。ロングセントリックとは中心咬合位において、前後にわずかな自由域、許容範囲を持つ咬合である⁹⁾。咀嚼時の基本経路は脳幹にあるCentral Pattern Generator (CPG)により営まれるため、有歯顎の時にロングセントリックだったことが影響し、無歯顎でもロングセントリックを有することがある。また、無歯顎者は、無歯顎に至るまでの咬合変化やそれに伴う顎関節の変化や、義歯の長期

使用に伴う顎位変化・病的な習慣性咬合を原因として、顎関節の器質的变化(顎関節の平坦化等)や機能障害をおこしている可能性がある¹⁰⁾。この場合、垂直的顎間関係決定法としてゴシックアーチ描記法を採用しても、また、顎位や人工歯排列位置を模索するためにフラットテーブルを使用した治療用義歯を装着しても、中心咬合位を一点に決定することができないこともある。ロングセントリックを有するシングルデンチャーでは、咬合調整で中心咬合位の干渉のないように前後方・側方の調整に配慮する⁸⁾。



1



2

下顎両側遊離端義歯装着時、ロングセントリックだった。下顎前歯は咬耗を起こしている。



3



4

下顎前歯部を根面板とし、下顎シングルデンチャーとすることで、顎位改善を図る。旧義歯改造を行い、咬合状態を確認するが、下顎前歯は前方位になりロングセントリックを有する。



5



6



7

ダイナミック印象前の製作シングルデンチャーの咬合状態。咬合が安定しない。

リマウントを行い、咬合調整で中心咬合位の干渉のないように前後方・側方の調整に配慮する。

- 6) 深水皓三,堤嵩詞:治療用義歯を用いた総義歯臨床:松風クラブ:2014:56-57
- 7) 阿部二郎:阿部二郎の総義歯難症例 誰もが知りたい臨床の真実:医歯薬出版:2013:154
- 8) 鈴木哲也,古屋純一:コンプリートデンチャー——鈴木哲也のマスター1-ランクアップのための知識と技:デンタルダイヤモンド:2017:196-197
- 9) 日本補綴歯科学会(編):歯科補綴学専門用語集第4版:2015:96
- 10) 井出吉信,上松博子:歯の喪失に伴う顎骨の形態変化:歯科基礎医学学会雑誌39(2):79-90:1997



歯科医院なかやは住宅街のマンション1階にある



訪問診療の専用車に毎日、機器を積んで出発



院内のチェアは2台。各々ゆとりあるスペースを確保している



院内はバリアフリー。車椅子でも受診できる

訪問診療に重きを置き、 アットホームな治療で 地域医療に貢献

長野県飯田市にある「歯科医院なかや」は地元密着型の歯科医院。
アットホームな診療方針を大切に、
訪問診療をメインにしている理由を伺ってみた。

歯科医院なかや 院長 遠山 清美 先生



患者とじっくり向き合える 訪問診療に魅力を感じる

「歯科医院なかや」があるのは、マンションの1階。玄関を入ると、受付と待合室の奥にチェアが2台置かれている。歯科医師1人の一般的な歯科医院より、こぢんまりとした印象だ。

それもそのはず、歯科医院なかやは、外来も行なっているが、訪問診療により重きを置いているからだ。

歯科医院なかやの開業は、2015年。東京や埼玉などの歯科医院勤務を経て、遠山清美院長は生まれ育った地に開業した。

「訪問診療に出会ったのは、飯田市にあるJA運営の歯科医院に勤めていたときです。行く前は知らない方の家に入るのも怖くて緊張していたのですが、伺ってみると、とてもアットホームな雰囲気です。そのとき、訪問診療は自分に合っていると感じたのです」

訪問診療では高齢者のペースに合わせて、治療も会話もゆっくりになる。じっくり患者と向き合えることや本人はもちろん、家族にも喜ばれることがうれしかった。

遠山院長は長年、外来にやりがいを感じてはいたが、1日何十人も患者と接する短時間の診療に疑問も感じていた。もっと患者に寄り添える治療をするにはどうしたらいいか。そう考えていた遠山院長にとって、訪問診療は理想の形だった。

「高齢化が進み、訪問診療のニーズが高い地域という

こともあり、自分の歯科医院は訪問診療を中心にしようと決意したのです」

会話と連携を重視し、 難しい症例にも取り組む

現在、歯科医院なかやは午前を一般外来、午後を訪問診療にあてている。訪問診療で診る患者数は1日10人以上。自宅を訪問する場合もあれば、介護施設や病院を回ることもある。レントゲンなど治療に必要なポータブルユニットの一式を毎回、台車で診療専用車に積んでの訪問だ。

「訪問診療の患者さんは、長年、歯科治療を受けていないこともあり、難易度の高い症例が多いです。歯の多くが残根のままであったり、すれ違い咬合になっていることも珍しくありません。また、感覚が鈍化していたり、認知症の影響で『歯が痛い』ということが分からなくなっている患者さんもいます」

口腔と身体がデリケートな状態になっている患者を治療するには、本人と家族だけでなく、ケアマネージャーやヘルパーなどの介護スタッフ、医科の主治医との連携が重要だ。遠山院長は「相手の話をよく聞くことを心がけている」と話す。

患者の中には家族への遠慮から、費用がかかる治療を敬遠することもある。そうした悩みも定期的に訪問し、じっくり話を聞き、信頼関係を築くことで解決の道が探れることもある。

最近では、誤嚥性肺炎を防ぐために、嚥下機能の回復も大切な治療の一つになっている。内科やリハビリ科の



待合室。奥の机で子どもの患者が勉強することも



医科用内視鏡で嚙下の状態を診断、治療することも



セファロ付レントゲンを設置

医師と協力し、口腔ケアと咀嚼機能のトレーニングを続けることで、口からの食事が可能になるケースも多いという。「高齢の患者さんは歯周病が命とりになることもあります。そんな命の瀬戸際にある患者さんでも、きちんと治療すれば、食べる喜びと生きる力を取り戻すことができます。歯科医師としてやりがいを感じます」

スローペースの診療で 患者に寄り添う

歯科医院なかやがもう一つ、大切にしていることがある。子どもの歯科衛生の向上だ。「マタニティ歯科」の名称で、妊娠中から母親に歯への関心を高めてもらおうと取り組んでいる。

「お年寄りには摂食機能が衰え、赤ちゃんは発達していくので気づきにくいのですが、下り坂と上り坂の違いはあっても、口の中で起こっていることには共通点が多いんです」

遠山院長は離乳食の選び方や与え方、抱っこの仕方を始め、鼻呼吸や不正咬合の予防には、ハイハイの時期が大切なことなどをきめ細かく母親に伝えている。

「命の漢字には口の文字が使われています。『未来を築く歯科』としての使命を大切に、お子さんにはたくさん食べて大きく成長し、シニアの方には口から食べて長生きして欲しいと思っています」

誰もが幸せで長生きする世の中になって欲しいという遠山院長の願いは、スタッフの勤務態勢にも現れている。院長自身が2人の子どもを持つ母親であり、仕事と家庭が両立できる職場環境の大切さを実感しているからだ。

現在、スタッフは歯科衛生士が4人、歯科助手が1人。スタッフの一人には中国出身者もいる。近隣に中国人が多い団地があり、その地域の人たちも受け入れやすいようにとスカウトした。それらのスタッフも全員が子どもや家庭を持つ身。歯科衛生士が1人で患者を訪問することもあるが、午後4時には勤務が終了するシフトになっている。「うちの歯科医院は、ゆっくりゆったりがモットー。ホームページもこれから作ろうと思っているようなスローペースです。訪問を中心とした歯科診療のスタイルは、家庭を持つ女性の歯科医師には向いているのではないのでしょうか」と、遠山院長は微笑む。その穏やかな笑顔と歯科医院の温かい雰囲気、高齢者や幼い子どもを持つ親を安心させ、信頼感につながっているのだろう。



遠山院長とスタッフのみなさん

PROFILE

遠山 清美 先生

- 1999年 神奈川歯科大学卒業 ●2002～2010年 東京や埼玉の歯科医院に勤務。出産のため退職し、長野へ帰郷
- 2012～2014年 みなみ信州農協歯科診療所勤務 ●2015年 歯科医院なかや開業

歯科医院なかや

住所：長野県飯田市松尾常盤台280-1 タクビル3 1F TEL：0265-48-5328



SASAKI Care & Communication Vol.48 May 2019 お問い合わせ・ご意見：『C&C』事務局 細谷俊寛
FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

発行：ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。